

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス なのはな		公表日 令和7年 2月28日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員数も増えて支援も手厚くなったと思う。個別対応、または職員が児童の目の届く範囲に配置されている。	昨年度まで配置に余裕がありませんでしたが、ようやく余裕が生まれたのでより十分な支援が出来るよう努めていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		必要な構造化については話になるが現状、改善に至らないので、日々の工夫で対応している。	バリアフリーや情報伝達等は大掛かりな改修が必要。前向きに協議、検討していきます。トイレが男女共用であることが課題の一つ。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		カーテンなどで空間を分けたりしている。	日々、清掃・消毒を行い、衛生的ですが、大きな音や声を遮断できる環境ではないため、改善が必要だと思います。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	部屋（個別）はないが、カーテンで分けたりはしている。	個室が無いことは大きな課題だと思います。改修が必要であり、現状は本館の別の部屋で対応等の方法しかないのが現状です。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			全体会や部署での話し合いを通して参画できるようにしています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			保護者の意見等はその都度、職員間での共有に努め、業務改善や支援の改善に努めています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝の打合せだけでなく、普段の会話の中でも職員間で情報共有、意見の把握等に努めています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		自主研修だけでなく、法人開催の研修もあります。資格取得もできるよう配慮もなされています。	全国大会や九州大会などへの参加が減少しており、最新の情報や意見交換が出来る機会が減っているため、改善が必要。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援手順書等、細やかに作成されていて統一した支援がチームでしやすい。 R7.1.20より家族へ周知の機会を設けた。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		支援手順書で共有している。	アセスメントの際に支援手順書の更新が作業としては大変だと思いますが、いつ誰がきても個々の対応等は分かりやすいと思います。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			日頃の打合せや会議を通して、情報の共有がなされるように努めています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間の共有を図りながら、その時の状況にあった支援を行っている。	日頃の打合せや会議を通して、情報の共有がなされるように努めています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントだけでなく、法人特有の「支援手順書」を作成している。	標準化されたツール等は使用していませんが、独自のツールを使用してアセスメント等を行っています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個々にあった個別支援、課題も日々の業務の中で設定されていると思う。	「地域支援・地域連携」については難しい部分もありますが、今後も職員間で十分な話し合いを持ちながら、設定していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動計画はみんなで話し合って決めている。月案、週案を前月に話し合い、決めている。	チームで作業を分担することで、色々なプログラムの提供が今後出来るようにしていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		色々な経験が出来るように工夫している。	マンネリ化防止のために色々な情報収集と役割分担での作成に努めています。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			これからも「個」と「集団」が上手く機能し成長に繋がるように工夫していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の役割分担がしっかりミーティングで話し合われている。	ミーティングだけでなく、引継ぎ帳も活用して支援内容等を確認できるようにして連携強化を図っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	翌日に非常勤職員は打合せが行われている。	シフトの関係もある為、支援終了後に振り返りや打合せは行っていないが、翌日の午前中に打合せと前日の振り返りを実施している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		その日、直接的に関わっていない職員にも確認しながら、記録することが出来ている。	できるだけポイントを押さえた記録になるよう努め、支援の検証・改善に繋がるようにしています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			基本的には半年に1回としていますが、就学時やその他、状況に応じた見直しは行っています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		出来ている部分もあるが出来ていない部分がある。	日によって十分でないこともあるかもしれませんが。職員間で日々、協議・確認していきます。また理解が進んでいない職員もいるため、理解できるように努めてまいります。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		お菓子の選択や衣類の選択等、自己能力を育てる活動をしている。	各種場面で自己選択、自己決定ができるようにすると共に処遇職員へも具体的に話をして共通理解を図るようにしています。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			基本的には児発管で対応しています。内容によっては直接処遇職員の参画してもらいます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援事業所、児発管で連携をより密にできるように努めています。	必要に応じて会議の開催等行っていますが、まだ十分とは言えないため、今後も工夫は必要です。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校へ直接、連絡する・送迎時に情報共有する等、適宜行っています。	時々、家族からの情報提供で行事や下校時刻の変更を知ることがある為、学校への相談・協議も必要と感じています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			情報共有と相互理解については十分とはいえない為、連携強化に努めます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			移行支援会議に参加するなどして情報提供できるようにしていますが、学校からの情報があるため、必要ないと言われるケースもあります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		現在、少しずつ研修等受けることができるように設け始めたところです。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		現状、難しい状況にありますが、前向きに検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		法人内の相談支援事業所から情報提供はありますが参加はこれまでないため、参加できるよう検討します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々のお迎えの際、保護者との状況、課題は話し合っている。	日頃の迎えの際に話をするように努めていますが、必要に応じて面談等も随時対応できるようにしています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		ペアレントトレーニングの実施が出来るよう現在、準備を進めています。その他、研修も実施できるよう検討します。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			利用前の契約の際に説明を行っています。支援プログラムについては今後、併せて説明を行っていく予定です。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		家族のつどい、お迎えの際の家族との連携を図っている。	日々のやり取りの中で情報収集をしたり面談時に何うなどして確認するようにしています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			相談については適宜、対応するようにしています。



保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		「家族のつどい」開催前にアンケートを配布して「今、何が必要か？」の情報収集に努めるようにしています。	月に2回、「家族のつどい」を開催し、その時の家族が抱える困り感や要望等に対して、みんなあいで検討する場にしたり、家族同士の交流が出来る場になるようにしています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			苦情等対応窓口はわかりやすい場所に掲示し、苦情等があった際には迅速に対応できるように努めています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		インスタを活用し、日々の活動の様子を伝えている。	インスタを毎日、リアルタイムで更新できると良いと思うが、数日空いたり営業時間後に更新しているため、早く更新できるよう努めます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		毎年、更新している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			長く続く課題の一つだと認識していますが、なかなか改善出来ていないため、今後も互向きに検討・協議していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		適時、訓練や感染対策を徹底している。	入職したばかりの職員はタイミング的に訓練実施まで至っていないと思います。今後、随時訓練を実施していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			入職したばかりの職員はタイミング的に訓練実施まで至っていないと思います。今後、随時訓練を実施していきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		保護者に同意を得た上で必要に応じて、相談支援事業所等の関係機関に確認を取るようにしています。	聞き取り票を記入してもらおうようにしています。また直接、話をさせてもらい確認しています。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーのある子どもの食事支援には細心の注意を払っている。	定期的にエピペンの使用等について研修の場を設けています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全計画の作成と職員への周知はなされているが実施の屋外活動においては初めての場所などの下見、把握は十分とは言い難い状況。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			安全計画の家族への周知は現時点で十分とは言い難い為、十分な周知がなされるよう努めていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		業務日誌で共有されている。ひやりはっとの情報を共有し、再発防止に努めている。	事故等対策委員会が月1回開催され、情報の共有と再発防止策を検討するようにしています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		「振り返りシート」を毎月、記入してもらい、自身の支援の在り方について振り返る機会を設けています。	虐待防止委員会、全体会の中で協議し、また研修も行うことで意識向上を図れるようにしています。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束を行なうことについては事前に保護者に話している。	対象になる可能性がある利用者とその家族には十分な説明を行い、会議の中でも情報の共有を図っています。	